

もじくみ仮名の利用

齋藤修三郎

平成14年12月18日

1 はじめに

「もじくみカタ」[EB]は、「日本語の文字と組版を考える会」にて作成された「もじくみ仮名」をもとに、カタコリ様が OTE 形式として作成された物です。

<http://dtp.csides21.com/>

フォントは上記の場所からダウンロード出来ます。

この文書はもじくみカタ用スタイルファイルを利用するためのマニュアルおよび、もじくみカタの組版サンプルです。インストールはパッケージに付属の `readme.txt` をご覧下さい。

以下の文章では、字形について言及する際には、「もじくみ仮名」と呼ぶことにし、フォントについて言及する際には「もじくみカタ」と呼ぶことにします。

2 スタイルファイルの使用方法

この節ではスタイルファイルの使用方法を説明します。プリアンブルで

```
\usepackage{mojikumi}
```

と書きます。オプションには `kokagi` があります。

```
\usepackage[kokagi]{mojikumi}
```

`kokagi` を宣言すると鍵括弧、二重鍵括弧が小鍵括弧で表示されます。

「もじくみ仮名」を使いたい場合、`\mjfamily` を宣言します。もとに戻すには `\mcfamily` を宣言します。

2・1 外字マクロ

「もじくみ仮名」には外字として、いくつかのグリフが含まれています。それらを使用するためのマクロを用意しました。

コマンド	外字	備考
<code>\waten</code>	ヅ	
<code>\witen</code>	ヰ	
<code>\weten</code>	ヱ	
<code>\woten</code>	ヰ	
<code>\uten</code>	ウ	
<code>\varwi</code>	井	
<code>\varwiten</code>	井	
<code>\ninojiten</code>	ゝ	縦組みでのみ有効
<code>\yori</code>	よ	より
<code>\koto</code>	こ	コト
<code>\wexcl</code>	!!	
<code>\wquest</code>	??	
<code>\exclquest</code>	!?	
<code>\questexcl</code>	?!	
<code>\kentenchara</code>	◎	圏点用
<code>\kentencharb</code>	●	圏点用
<code>\kentencharc</code>	。	圏点用
<code>\kentenchard</code>	・	圏点用
<code>\kentenchare</code>	ゝ	圏点用
<code>\kentencharf</code>	ゝ	圏点用
<code>\ohkaeshi</code>	く	縦組みでのみ有効
<code>\ohgaeshi</code>	く	縦組みでのみ有効

2・2 鍵括弧

オブション宣言のところで述べましたとおり、「もじくみ仮名」には小鍵括弧のグリフが含まれています。一つの文書内で、一方の鍵括弧のみを用いる場合は、オブション宣言で `kokagi` を宣言するか、あるいはデフォルトの状態にすれば結構です。両者を混在させる場合について説明します、どちらをメインに使うかによって `kokagi` オブションの宣言の有無が変わります。鍵括弧の切り替えはシェイプの切り替えで行います。`varshape` を宣言すると大鍵／小鍵が入れ替わります。もとに戻すには `upshape` を宣言してください。シェイプを変更する範囲をグループピングするば `upshape` を使う必要があります。但し、グループピングの仕方によっては、JFM 由来のグループが正しく挿入されなくなることがあります。また、上手くグループピングすることが出来ないことがあります。その場合は個別に調整する必要があります。大鍵括弧がメインで、鍵括弧の中の鍵括弧は小鍵括弧を用いる例を以下に挙げます。

「`\varshape`」大鍵括弧の中は「小鍵括弧」を使います`\upshape`。」

「大鍵括弧の中は「小鍵括弧」を使います。」

幾分病的な例も挙げておきます。

「`\varshape\inhibitglue`」大鍵括弧の中は「小鍵括弧」・`\inhibitglue`
`\upshape` 『二重鍵括弧』を使います。」とのこと。

「大鍵括弧の中は「小鍵括弧」・『二重鍵括弧』を使います。」とのこと。

サンプル

この節では、いくつかのサンプルを示します。まずは大返しのサンプルです。

次の日の夕方、湖畔の焚火を囲んで盛んな饗宴が開かれた。大鍋の中では、羊や馬の肉に交つて、哀れなシヤクの肉もふつく煮えてゐた。食物の餘り豊かでない此の地方の住民にとつて、病氣で斃れた者の外、凡ての新しい屍體は當然食用に供せられるのである。

中島敦「狐憑」より引用

このサンプルでは大返しに傍点がついています。これは次のようなマクロを作り対処しました。傍点の実現には様々な方法があると思いますので、スタイルファイルでは対応しておりません。

```
\def\bonohkaeshi{\leavevmode\hbox{to}2zw{\hss%\bou{\kaesinej}\bou{\kaesitataj}\hssj}}
```

二の字点のサンプルと濁点付き「井」のサンプルです。

学土で候の何のと云ツた処で味噌摺の法を知らずお辞義の札式に熟せざれば何処へ行ても敬して遠ざけらるゝが結局にて未だしも敬さるゝだけを得にして責めてもの大出来といふべし。

内田魯庵「為文学者経」より引用

「然し冗談は冗談だが晝といふものは實際六つか敷ものだよレオナルド、ダ、井ンチは門下生に寺院の壁のじみを寫せと教へた事があるさうだ。なる程雪隠杯に這入つて雨の漏る壁を餘念なく眺めて居ると、中々うまい模様晝が自然に出來て居るぜ。君注意して寫生して見給へ屹度面白いものが出来るから」「又欺すのだらう」「いへ是丈は慥かだよ。實際奇警な語ぢやないかギンチでもいひさうな事だあね」「成程奇警には相違ないな」と主人は半分降參をした。

夏目漱石「吾輩ハ猫デアル」より引用

外字の用例として以下のような物があるそうです。

ガリワ旅行記、ワイオリン、ギオロン、ズルレエヌ、ヂルガ